

Q&A 西新潟中央病院と地域医療構想（再検証要請医療機関リスト）

病院長 大平徹郎 Tetsuro OHDAIRA

- ◆ 先ごろ厚生労働省は「地域医療構想」に関連し、全国 424 の公立・公的病院を「自院の急性期病床数を再検討してほしい医療機関（再検証要請医療機関）」として発表しました。新潟市西区にある当院も、近くに大きな総合病院が複数あるという理由で、そのリストに掲載されています。報道をごらんになった患者さんやご家族から「西新潟中央病院はどうなるの？」とご質問を受けることがあります。風評による誤解を懸念する立場から、Q&A 形式でまとめてみました。

Q1 政府（厚労省）の推進する「地域医療構想」とは何ですか？

- A. 「地域医療構想」は、これから進行する人口減少社会における地域医療のあり方を、それぞれの地域が主体性をもって築きあげましょうという政策です。

Q2 厚労省が「急性期病床を再検討してほしい公立・公的病院」の名前を発表

したそうですが？

- A. 2019 年 9 月に公表されたリストには、全国 424、新潟県内 22 の公立・公的病院が掲載されています。「地域医療構想」を進める一環として、急性期医療の将来像を地域全体で深く検討するための資料です。

新聞紙上では「集約・再編の対象となる病院」といった刺激的な文字が目につき、風評が県民の困惑を招いているのが実情です。

Q3 なぜ西新潟中央病院は、「急性期病床を再検討してほしい公立・公的病院」

にリストアップされたのですか？

- A. 今回の病院選定は、急性期医療（がん、心臓血管、脳卒中、周産期・小児科、救急など）に限定しているからです。

当院は入院ベッド数 400 床を有し、その内訳は、急性期 140 床、回復期 55 床、慢性期 175 床、その他 30 床です。当院でしか担うことのできない様々な医療を展開する専門病院ですが、いわゆる総合病院ではありません。新潟市の救急輪番に参加するものの、急性期ベッドは全体の 1/3 に過ぎません。近隣の総合病院と比較すれば、急性期医療の実績が相対的に少ないのは当たり前です。

一連の報道によって、当院の患者さんやご家族が不安なお気持ちになっておいでなのでは？と心配です。みなさまから必要とされる、なくてはならない病院として今後も揺るぎはありません。

Q4 新潟市中央区・西区には「公立・公的病院」が多く、病院を集約した方が効

率的と判断された、と地元新聞の報道にありました。どう受けとめればよい

のですか？

- A. 厚労省による「急性期病床を再検討してほしい公立・公的病院（通称：再編統合対象病院リスト）」の公表には、「これからの人口減少を見越して、全都道府県・各地域で自らの急性期医療のあり方を見直してください」というねらいが込められています。

国民にこの課題をわかりやすく伝えるため、「地元の身近な病院名をあげて、あたかも集約・再編するイメージを与えるのが何より効果的」と厚労省は考えたに違いありません。名指しされた病院は大変な迷惑です。急性期だけでなく複数の機能を担っている西新潟中央病院が、今回の名指しをもとに統廃合されることなどありません。国立病院機構の病院は、国税の投入を受けることなく独立採算で経営されていることもぜひご記憶ください。

厚労省の方針や一連の報道から見てとれる最も重要なメッセージは、地域医療の将来像をそこに住むみんなで考えましょう、ということなのです。